

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記六)】			
事業所番号	4271401400		
法人名	株式会社 日進開発		
事業所名	グループホーム「くにみの里」		
所在地	長崎県雲仙市国見町多比良戊1449-416		
自己評価作成日	令和6年8月31日	評価結果市町村受理日	令和6年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和6年10月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護事業の理念に掲げている「健康管理の徹底」「楽しい食事」「やさしい声かけ」「快適な施設」をもとに入居者様お一人お一人に「まごころ」をもってサービスを提供し「ここにきて良かった」と安心して居心地よく生活して頂けるよう心がけています。

施設内に畑や花壇があり入居者様と職員と一緒に野菜や花を育て植え付けや収穫を行い楽しまれています。庭には、小川や芝生、ベンチがあり休憩したり散歩をしたり各々楽しく過ごされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム敷地の菜園で入居者と職員と一緒にビニールハウスを建て、キュウリやピーマン、トマト等の野菜のほか、ザクロ、レモン、桃、柿、キンカン等の果物を栽培し、入居者が散歩しながら生育状況を眺めたり、収穫して各棟で手作りの料理を食卓に並べ、職員と入居者が一緒に食事を摂りながら収穫の喜びを分かち合っている。入居者の残存能力に応じてテーブル拭きやお盆拭きなどのほか、今回の訪問調査時には入居者により評価調査員の食事を配膳してもらうなど、入居者にとっての役割や出番があることで場面づくりを支援し、意欲の向上に繋がっている。職員はユマニチュードの研修を受講し、入居者が一人にならないよう留意して優しく声を掛けながら寄り添った支援に努めている。入浴は2日に1回を基本としているが、入浴する時間帯は特に定めず、本人が入浴したいタイミングで入浴してもらい、毎日湯を沸かしている。毎月発行するホームだよりで本人の様子を載せ家族へ知らせており、家族の安心や喜びに繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価		
			実践状況(ユニット名: A棟)	実践状況(ユニット名: B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を理解しながら職員同士、声かけし協力して介護に取り組んでいる 毎日の業務報告を行っている	会議やミーティングにおいて皆で唱和し、その理念に基づいたサービスが出来ているか、日々意識づけを行いながら入居者様へ安心・満足して頂けるよう取り組んでいる	職員は会議等で日進グループの理念である「健康管理の徹底」、「楽しい食事」、「やさしい声かけ」、「快適な施設」を唱和し、「まごころ」を持って介護サービスを提供することに努めている。理念に基づき、テーブルの下に足置きを設置し安定した姿勢の確保や、入居者が一人にならないよう留意して優しく声を掛けながら寄り添った支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の福祉体験と交流に入居者様も大変喜ばれた 小学校への卒業プレゼントは、毎年行っている	小学校の卒業式に贈る花を育て子供達をお祝いしているが、感染予防の為、交流は自粛している	ホームで発行するたよりを地域に配ったり、高校生が和太鼓をホームで披露してもらうなどのほか、小学5年生の福祉見学を受け入れるなど可能な範囲で地域交流を継続している。コロナ禍前はくみの里祭りを実施し、家族や自治会、民生委員など地域住民が参加されていた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉体験や推進会議で、認知症の理解や支援の方法を地域の方に向けて活かしている	今年度は小学生の福祉体験学習の受入れを行い、認知症を知って頂く機会を設けることが出来た			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策を行って、行政・民生委員・ご家族様と一緒に状況報告や話し合いができるように意見をサービス向上に活かしている	入退所・活動・サービスの取り組みについて報告し、意見を頂きサービスの向上に努めている	2か月毎に実施している運営推進会議には、民生委員、家族代表、市役所職員、各棟職員、施設長、関連事業所職員等で構成されており、各棟の状況報告、行事計画、身体拘束の取り組み、事故やヒヤリハット、質疑応答がなされている。各委員からの意見や要望を聞きサービス向上に活かすよう取り組んでいる。会議録は全家族へ請求書と共に発送している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A棟)	実践状況(ユニット名: B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ZOOMの開催に参加したり、電話で必要な場合は尋ねながら協力関係を築くようにしている	必要に応じて質問等がある時は市の担当者に尋ね指導を受けている	運営推進会議に市職員が参加し、ホームの現状を伝え意見や助言を得ている。市グループホーム連絡協議会が開催する研修会へ参加するなど関係機関と協力関係を築くよう取り組んでいる。管理者はマイナンバーカードの紐づけに関する事など最新の情報を入手しながら必要に応じて行政関係部署に相談や指導を仰ぎながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について毎月ミーティングで話し合いをし、また3ヶ月毎に身体拘束0委員会で話し合いをしている。玄関も日中は解錠しており、入居者様が外に行きたい要望にもすぐ対応している	身体拘束をしないことを大前提としており、出入りなど自由できるようにしている。毎月のミーティングで身体拘束についての指針を理解し、周知するよう取り組んでいる。又、3か月に1回、身体拘束委員会を開催し状況報告を行っている	ホームでは身体拘束ゼロを継続しており、訪問調査現在身体拘束が必要な入居者は確認できない。3か月毎に身体拘束ゼロ委員会を各棟と合同で開催し、どのような行為が身体拘束に該当するのかを検討する共に、各棟の職員間でも事例を話し合い、身体拘束のないケアに努めている。また、年間研修計画でも身体拘束・虐待防止に関する研修を企画し、職員は研鑽に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、ミーティングなどで利用者様に対する言葉づかいなどを話し合い、失礼がない言葉づかいに毎日努めている	虐待についてはミーティング等を通して情報共有に努め、見過ごされることがないように注意し入居者様への声掛けなどにも気を付け虐待防止に取り組んでいる。虐待防止の為の指針の整備を行い周知に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護事業を行っている方はいないが、個々の必要性を話し合いながらご家族様からの相談に活かせるようにしている	現在活用されている方はいないが資料を用意し家族・職員からの相談に生かせるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A棟)	実践状況(ユニット名: B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時や改定時に文章を作成し、説明を行い同意を得ている 質問等は都度、納得していただけるまで説明している	契約時に重要事項説明等の内容説明を十分に行い、解約・改定の際も文章を発送し理解納得されるよう十分に説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を話して下さるよう信頼関係を築くよう努めており、状況報告等の電話や面会で要望を聞き、運営に反映させている	意見や要望について話して頂けるような信頼関係を築くよう努めているが、感染予防で面会への規制がある為、定期的に電話にて状況報告し、その際要望等を伺い運営に反映させている	家族の意見や要望は、電話連絡時や、玄関での面会時に聴き取り、また、入居者本人から把握した要望等は個人記録の特記事項や申し送りノートに記録し、職員間で共有している。ホームだよりを毎月発行し、入居者の様子を知らせ、家族との信頼関係の構築や、家族の安心や喜びに繋げている。	入居時における重要事項として第三者評価の受審状況を家族等へ説明することが求められており、今後、重要事項説明書において第三者(外部)評価の受審状況が分かるように、第三者(外部)評価実施の有無、評価実施日、評価機関名、評価結果の開示状況を記載すると共に、外部評価を通じて家族に対しアンケート調査を実施し、家族の意見等を汲み取る機会となる旨を説明し協力を求めることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の業務内での職員の意見や提案は聞き入れてもらえる その意見を管理者会議で報告して、施設長が法人の会議で提案することで反映の機会を得るようにしている	管理者会議にて、職員の意見や提案を報告している その後施設長が本部の会議で提案することで反映の機会を持てるようにしている	職員は積極的な提案を出し合いながら業務上の相談などは管理者や施設長に伝え、風通しの良い職員間の関係性を築き、より良い職場環境の整備に繋げている。職員は毎月開催するミーティングで意見や要望を出し合い、必要に応じて施設長が法人本部に上げて職員意見を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務上の相談にも対応していて、やりがいをもって働くことのできるよう職場環境条件の整備に努めている	仕事の効率化を図り、業務が長時間に及ばないよう工夫し、コミュニケーションを図っている		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A棟)	実践状況(ユニット名: B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	R5年度は、社内外の研修にZOOM参加や感染対策をとりながら、対面での参加をすすめている	研修案内を提示し職員一人一人に参加を促している、また資格取得の為の協力をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	雲仙市グループホーム連絡協議会にZOOMで参加している	雲仙市GH連絡協議会が開催されている勉強会などZOOMで参加し他事業所と情報交換を行い、交流を持つ機会を広げている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用申し込み時にコロナ感染状況をみて施設見学を行ったり、利用前に本人様と面談を行っている ご家族様から生活状況等を聞き取り、安心して利用していただける体制を整えている	現在の不満や困っている事や要望を聞き、安心して生活されるように生活歴等の情報も把握してうえでより良い関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に生活歴や困っている事、不安な事や要望等を聞き取り、安心して利用していただけるように信頼関係づくりに努めている	ご家族様と電話にて不安な事や困っている事など定期的に聞き取りを行って、入居者様に安心して過ごして頂くよう信頼関係作りを行っている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A棟)	実践状況(ユニット名: B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、どのように生活したいのか、会話や動きを見て意見を伺いながら、計画に反映させている	入居者様や家族と交わり、いろんな意見を取り入れ計画を作成している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活支援を行いながら、職員と一緒に家事手伝いをしていただける関係を築いている	本人の意見を尊重し生活支援を行い、入居者様自身も家事等に参加できる環境を作るよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や里だよりで日頃の様子を報告したり、インスタグラムで行事の様子をあげて、入居者様と一緒に支えていく関係を築いている	感染予防の為、面会や受診の同行は自粛しているが、日頃の状況を電話にて報告し、入居者様の様子などは月に一度発行の里だよりに記載し、インスタにも上げて家族と共に支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院にご家族様が連れていかれたり、受診の帰りに馴染みの店に寄り、交流を図り買い物ができるように支援している	感染予防の為、馴染みの店や場所に行くことが制限されているため、職員が代行し本人様の好きなものを購入したり、面会希望をされる方へは電話を利用し関係性が途切れないよう努めている	入居時にその方の生活歴を確認すると共に、関係機関からの情報提供書を把握している。家族や友人等との面会はコロナが5類になったものの感染状況に応じてガラス越しの面会や玄関先での面会を実施している。病院受診後に本人の自宅近くを通り様子を見に行くこともある。携帯電話を持ち込む方には家族や友人と会話ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A棟)	実践状況(ユニット名: B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様にパズル・ぬり絵・本を職員が提供し、利用者様同士が楽しく会話できるような場を作るよう努めている	利用者同士の関係性を把握し、ひとり一人の気持ちを汲み取りながら入居様が孤立しないように声掛けや話の橋渡しをしたりと職員を介して交流が出来るように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者様の次の受け入れがまだ決まってない時は、ご家族様の不安もある為一緒に受け入れ先が見つかるまでのサポートを行っている	退去の際、次の受け入れが未確定時には家族の不安もある為、一緒に受け入れ先が見つかるまでの支援を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が利用者様にどのように過ごしていきたいのか聞き取りを行ったり、本人様の誕生日には何が食べたいか聞き、食事に加えるなどしている	本人の思いや暮らし方の希望・意向の把握について聞き取りを行い、できる限りその方の求めている事に応じるように努めているが、困難な場合はご家族の方と相談しながら本人本位に検討している	職員は意思疎通が困難な方には本人の表情や動きを見て話しかけ、寄り添うようにしている。難聴の方には耳元で話したり、口元で伝えたり、ジェスチャーをしながら伝えるようにしている。ユマニチュードの研修を受け、本人本位の介護に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員が入居者様との会話を心がけ、会話の中で今までの生活の仕方等を聞くよう心がけている	入居時、本人やご家族から聞き取りを行い、利用されていた事業所に情報提供を依頼する等、本人の状況を知ることができるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A棟)	実践状況(ユニット名: B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人できる事に着目し、日々の記録によって生活リズムや心身状態を全員が周知し把握している 入居者様ができる作業を職員が一緒に行い、本人の有する力について理解を深めている	ひとり一人の1日の暮らし方を日々の記録によって生活リズムや心身状態を全員が周知し、把握するようにしている。作業など職員と共にして頂き、有する力の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人にとってよりよい生活の為の課題とケアのあり方を本人・家族・医師・看護師の思いや意見を取り入れて現状に沿った介護計画を作成している	入居者様やご家族の思い、職員の意見を反映し必要に応じて医師や看護師の意見を取り入れ本人様の現状に合う計画になるよう作成している	担当学会議で入居者の現状について協議し、課題分析や評価のもと入居者・家族から説明と同意を得て介護計画を作成している。必要に応じて受診時に医師から意見をj得て介護計画に反映することもある。食事の下ごしらえや梅干しづくり、盛り付けなど、家族にも意見を聞きながら実施可能な具体的な目標を設定し計画を立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきは個人記録に記載し、毎月のミーティングでも口頭で気づき等を報告し全職員が情報を共有し介護計画の見直しに活かしている	個別に記録する中に実践状況・入居者様の事での気づきや状況の変化などが分かるように記載し、プランに沿って生活出来ているか、職員が把握し共有できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の病院受診をご家族様が連れていきたいとの思いを受けて、コロナ感染対策を取っていただきながら希望に添えるよう努めている	入居者様とご家族様のその時々々の要望や必要な支援は迅速に対応し、本人・家族共に満足して頂けるように努めている		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A棟)	実践状況(ユニット名: B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容院や行きつけの店に買い物に行ったり、コロナ感染対策を取りながら生きがいを失わないよう支援している	感染症予防の為、買い物や外出などは自粛しているが移動図書館を利用し読書を楽しんだり、施設内の畑にハウスを建てたり野菜を育て収穫してもらい楽しむことができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医で受診を行い、受診ノートに記録し介護記録を持参し医師と情報共有できるようにしている 週に一度、訪問歯科の往診もある	かかりつけ医院での医療を受けられるようご家族と協力し通院介助を行っている受診時は受診ノート・生活記録を持参し医師と職員が共有できるようにしている	本人が希望するかかりつけ医を継続することができる。週1回(月4回)訪問看護を利用している。週1回訪問歯科も利用されており抜歯等にも対応している。受診後、薬の変更や検査結果で異常数値があった場合などは家族にも知らせている。職員は受診ノートに必要事項を記録し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回、訪問看護師やデイサービスの看護師に状態を報告説明して、指示を受けている また特変時は、すぐに連絡を行い対応・指示を受けている	毎週1回の看護師訪問にて1週間分の生活における身体等の状況を報告したり、気になる点を相談している 特変時にはすぐに連絡相談し対応の指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の連携室を通じ、医師と看護師とご家族様と情報交換しながら早期退院ができるように努めている	入院経過報告書を作成し、医療機関や家族とのやり取りの記載を徹底している。早期退院にも繋がるように活用している		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A棟)	実践状況(ユニット名: B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に説明を行い、重度化した場合、早めに医師とご家族様と話し合いを持ち、納得していただき安心した終末期が過ごせるよう支援を行っている	契約書に看取りについての指針を記載している。 「看取り」の研修会に参加し、安心して納得した終末期が迎えられるよう随時意思確認をしながら取り組んでいる	契約時にホームでの看取りについて本人及び家族に説明している。重度化した場合における(看取り)指針、看取り介護についての同意書を整備し、重度化した場合は、家族、医師、ホームと相談し支援方針を確認している。昨年、職員は看取りに関する外部研修に参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修にて救命救急の講習を受け、全職員に周知してもらっている また、急変時のフローチャート情報を各居室に掲示している	消防署による救急救命講習に年1回参加し救急蘇生法・AEDの使い方について指導を受けるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災の訓練を年3回、日中夜間を想定し入居者様と一緒に実施している 自然災害訓練では、非常食を实际作り食事に提供し、訓練している 感染症が発生した場合に備えて備品の場所を全職員が把握している	災害に備え、日中・夜間を想定し入居者様と共に避難訓練を行っている 有事備蓄品の点検も定期的に行っている	避難訓練は各棟及び同一敷地にあるデイサービス事業所と合同で実施している。今年度は6月に夜間想定訓練を実施している。令和6年9月1日付け備蓄一覧表を作成し、専用の保管庫にて施設長が管理している。母体法人がコンビニエンスストアを経営していることもあり、災害時等において物資(水等)の提供ができるとのことであった。	避難訓練時に地域の方は参加しておらず、地域と災害時の協力関係を築くまでには至っていない。今後、運営推進会議等を通じて地域の方に協力を求め、地域の消防団へ声掛けするなど少しずつでも地域と災害時の協力体制を築けるよう取り組むことを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月ミーティングで入居様の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを学び、対応している	入居者様の思いを尊重することで、思いやりのある声掛けと常に笑顔で対応している	職員は接遇研修に参加するなどその方を尊重した対応に努めている。居室に入室する際はノックし、「失礼します。ごめんね。」などと本人へ声を掛けている。入浴時や排泄時は外部から見えないよう配慮している。ホームだよりやSNSへの本人写真等の掲載に関し家族より同意を得、不同意の場合はその方が写り込まないように留意している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A棟)	実践状況(ユニット名: B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が希望を伝えやすいような雰囲気づくりに努めている	日々のコミュニケーションを図り、信頼関係を築いている。 意思表示が出来ない入居者様の表情などで様子を感じ取れるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人の生活ペースを大切にして、どのようにしたいのかを会話の中から聞き出し、希望に合わせて支援している	入居者様の望みを会話の中からくみ取り希望に添えるよう支援し、その方の気持ちを尊重しどのように過ごすかを話し合いながら生活を共にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理容室を利用され満足されている ご自分のお気に入りの服を身につけられている	出張美容室にて散髪をされ満足されている。 着替えの際好きな服を選んでもらい着衣されている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内の畑で採れた野菜を調理し、料理の盛り付け・配膳や下膳をできる事は率先して行っている	食べたいものを聞き献立を立てたり季節の野菜を多く使うように心がけている 食材の下ごしらえや食前・食後のテーブル拭きやお盆拭きの役割分担を行っている	敷地内の菜園で入居者と職員が一緒にビニールハウスを建て、キュウリやピーマン、トマト等の野菜のほか、ザクロ、レモン、桃、柿、キンカン等の果物を栽培し、入居者が散歩しながら生育状況を眺めたり、収穫して各ユニットで手作りの料理を食卓に並べ、職員と入居者が一緒に食事を摂りながら収穫の喜びを分かち合っている。食事の盛り付けや後片付けなど入居者の残存能力を活かした支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A棟)	実践状況(ユニット名: B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人様が食べやすいようにとろみなど一口サイズにカットし、食べる楽しさを味わってもらっている 水分が足りていない方は、飲み物を変える支援をしている	ひとり一人の状態や嚥下力に応じて食べやすい形態を工夫し、食事を提供している 食事量を記入したり、水分チェック表を活用し、個々の1日の摂取量を把握できるよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週、歯科の口腔ケアなどを受け助言をもとに声かけにて見守り、口腔ケアを行っている	食後は本人が出来るところまで歯磨きや入歯磨きをして頂き、磨き残しを介助し衛生管理を行っている、又、歯科往診にて口腔ケアや指導を受ける体制を整えている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を見てリズムを確認し、失禁時にはホットタオルで清拭・更衣・シャワー浴を行い、清潔を保っている	排泄チェック表を利用し、個々の排泄リズムを把握している ひとり一人の力や排泄パターンに合わせた支援、残存機能を活かした介助を行い、トイレでの排泄を支援している	排泄チェック表に記録し、その方の排泄のタイミングや状態を把握している。排泄を自立している方も多く、日中はトイレでの排泄を基本として支援している。尿意が無い方もおり、必要に応じて夜間帯のみオムツを使用するなどしながら、排泄状況に合ったオムツ・パッド類や介助方法を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消の為、医師への相談を行い、適切な指導を受け水分を多めに摂ってもらい予防対策している	食事は野菜を多く摂取して頂ける献立作りし、水分量も確保できるようにしている毎朝の体操や立ち上がり練習などの運動を行い個々に応じた予防に努めている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A棟)	実践状況(ユニット名: B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声かけを行い、体調などに合わせて入浴を促し、入浴剤の使用や温度の好みを聞き、ゆっくりと入浴を行っている	入浴は1日通して行っている 入浴が出来ない日が続かないよう声掛けを行い、体調が悪い方は清拭や更衣を促し個々に合わせた支援をしている	入浴は2日に1回を基本としているが、入浴する時間帯は特に定めず、本人が入浴したいタイミングで入浴してもらい、毎日湯を沸かしている。熱めの湯を好む方には一番風呂を用意したり、入浴剤や季節の菖蒲湯・柚子湯を行うなど入浴を愉しめるよう取り組んでいる。	入浴前に脱衣所を温めヒートショック対策を実施しているが、今後、温度計を設置するなどして、職員の体感だけではなく室内外の温度差を把握して支援に取り組むことを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活歴から就寝時間を把握し、日中の活動を促し生活リズムを整えるよう努めている 天気の良い日は、寝具を天日干しし、室温も入居者様に合った室温にして気持ちよく眠っていただけるよう努めている	個室にて入居者様が休まれる時刻に自由に就寝して頂いている 室温・加湿についても個々に合った対応を行っている 眠れない方には話し相手をし、ゆっくりと安心して眠れるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬の説明書を活用し、変更があった場合は受診ノートに記入し送りにて周知している	薬の説明書を保管し、全職員が分かるようにしている 服薬時には声を出して日付・氏名を確認し誤薬予防を行っている 薬の変更があった場合はその都度周知し、把握に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備・盛り付け・お盆拭き・洗濯物干し・洗濯物たたみ等、自分のできる事を楽しみながら行えるよう声かけ等の支援をしている	洗濯干し・洗濯物たたみや床のモップかけなどできる範囲で取り組まれている 施設内に畑を設け野菜を作ったり、花を植える支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A棟)	実践状況(ユニット名: B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症で外出ができない為、施設内でできるお花見や夏まつり等、計画を立てて楽しんでいただけるよう支援をしている	現在感染予防の為に自粛している	コロナ禍により外出を自粛しているが、近隣にあるフラワー公園や紅葉、庭先のシダレザクラの見学等、可能な範囲で外出している。敷地内の菜園に季節の野菜を植え、入居者と職員が共に収穫を楽しんでいる。冠婚葬祭で家族が入居者の出席を希望した場合は家族の協力の下で感染防止に留意し出席できるよう配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	受診の帰りに本人の希望で買い物ができるよう支援している また、希望があった時は職員が買い物代行をしている	自身で管理されている方は少額だが持っていることで安心される方もおられる為、本人と家族との合意の下で管理して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙などは、いつでも利用していただけるように支援している	電話したいと要望があれば、いつでも掛けられるよう支援している 聴力の弱い方に代わって通話に対応することもある 手紙はポストに投函する支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・リビング・廊下などに季節に応じた提示物や写真を飾ったりして、季節を感じるができる空間にしている	落ち着いてくつろげる空間になるよう季節感のある壁面装飾を手作りで行い、和むような雰囲気づくりをしている 庭には季節の花を植え居間から眺められるようにしている	見当識に配慮しリビングやトイレの方向が分かるよう表示板を掲示している。職員は毎日共用空間の掃除を行い、衛生面に留意している。リビングは明るく、テレビ、テーブル、ソファを設置し、入居者それぞれがテレビを見たり、居室で休まれたりと思いきいにおもいに過ごされている。季節感のある手作りの装飾があり、入居者が穏やかに過ごされている様子が窺える。	

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A棟)	実践状況(ユニット名: B棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、 気の合った利用者同士で思い思い に過ごせるような居場所の工夫をし ている	1人で居室で過ごされたり、リビング でお話したり、落ち着いて過ごせるよ うに支援している	入居者様同士で楽しく会話されたり、 ひとりになりたい時には自室へ戻っ たりできるようにしている リビングではお好きな場所に座られ、 お気に入りの位置で過ごせるように 配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人 や家族と相談しながら、使い慣れた ものや好みのものを活かして、本人 が居心地よく過ごせるような工夫を している	本人の好みやバースディ色紙など居 心地よく過ごしていただけるようにし ている	自分の使い慣れたものを持ち込み居 室内の配置は自由にされている 心地よく過ごして頂けるよう個性に合 わせた配慮をしている	居室に配置する家具やベット等は、本人 に確認しながら使い勝手が良いように 配置するようにしている。冷蔵庫を持ち 込む方もおり、家族の了承の下で飲み 物等を保管している。読書が好きな方や 編み物が得意な方もおり、本棚を置いて 多くの書物を持ち込み、趣味の読書を 継続していることが窺えた。居室は毎日 清掃し、清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できるこ と」「わかること」を活かして、安全か つできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	本人様ができることは見守り、心地 よく過ごせるように工夫してる	それぞれの居室が分かるように目印 となるものを置いたり、共同トイレや 脱衣室も分かりやすく示している		